

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善と楽しくよく分かる授業実践
- ②GIGAスクール構想の実現とプログラミング的思考の育成

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 近藤江利子	委員
	校長 原田 宏志 教頭 山崎 寛子 指導教諭
	・研修主任 溝内 正剛 教務主任 江元ひとみ 特別支援教育コーディネーター 山本 千紘

校長

原田 宏志

〇次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等,様々な機会を捉え,取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な漢字や計算の力や家庭学習の習慣が身に付いている児童が多い。 ●必要な情報を取り出して,文を読み取ったり理由や根拠を明確にして書いたりすることが苦手な児童がいる。	・身に付けてきた知識・技能を他の場面や生活に関連付け,活用することができる。 ・目的に応じて必要な情報を集め,理由や根拠が明確になるように,自分の考えをまとめることができる。	・海部っ子の学び方や海部小授業スタンダードを継続し,定期的に学力向上を検証する。 ・自分の考えをまとめるためにタブレット端末等を効果的に取り入れ活用する。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを説明することができる児童や学習マナーを守れる児童の割合が多い。 ●相手の話を聞いて理由や根拠を明確にし,はっきりと話すことや新しい課題を見付けることが苦手な児童がいる。	・相手の意見をよく聞き,理由や根拠を明確にして,自分の意見を書いたり話したりして表現することができる。 ・ICT機器を活用し,友達と協働的に学びながら物事を順序立てて考え,結論を導き出し実行できる。	・相手の意見をよく聞くために,効果的にICTを活用する。 ・意図的・計画的に自分の考えを文章に書いたり,発表したりする場を設ける。 ・タブレット端末等を活用した協働学習により,自分の考えを広げたり,深めたりするようにする。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業に真面目に取り組むことができる。また,自主学習に意欲的に取り組む児童もいる。 ●疑問を持ったことや解決したいことに粘り強く取り組んだり,新たな課題を見つけ,取り組む児童は少ない。	・最後まであきらめずに粘り強く学習に取り組んだり,「なぜ」「どうして」の疑問をもち,自分で計画を立て,主体的に学習に取り組んだりすることができる。	・タブレット端末等を利用した家庭学習の仕方を指導し,個に応じた指導をする。 ・タブレット端末等を利用し,子供の興味・関心を生かした単元づくりを進める。 ・「なぜ」「どうして」の疑問が生まれる発問の工夫をする。			

令和3年度 学力向上ロードマップ

